

# 通信制高校に通う生徒の現状と生徒の声

第一学院高等学校 大阪キャンパス  
山田理奈・松崎竜也

# 自己紹介

## 山田 理奈

中学	1年生冬から約2年間の不登校。3年生秋から別室登校。
高校	全日制高校に進学。不登校。⇒ 1年生秋に第一学院に転校。
大学	教育学部に進学。幼児教育を専攻。特別支援のゼミに所属。
現在	第一学院高等学校 大阪キャンパスで非常勤3年目。

## 松崎 竜也

大学	工学部(微生物専攻)⇒ 大学院 国際関係研究科(南アフリカ研究)
現在	第一学院高校 新潟キャンパス(4年)→神戸キャンパス(5年) →大阪キャンパス(5年目)

## お話をする目的

様々な場で  
子どもたちへの教育に  
関わる方々に  
通信制高校のことを  
知ってもらおう。

不登校や全日制進学に  
不安を感じている生徒や  
転校しなければならない  
生徒の選択肢を増やす  
きっかけに。

# 話の内容

## I.通信制高校とは

第一学院高等学校の紹介

## II.第一学院高等学校に在籍している子どもたちの現状と対応

生徒の現状/生徒と関わる中で意識すること

## III.生徒から集めた先生に対する思い

## IV.生徒の現状からの考察(私たち視点)

## V.まとめ

# 第一学院高等学校とは



- 通信制高校(通うこともできるキャンパスがある！)

卒業するには...**レポート課題 単位認定テスト スクーリングが必要**  
関西は 大阪(なんば) 大阪梅田 京都 奈良 神戸にキャンパスが存在

- 大阪キャンパスは約120人規模のキャンパス。  
ビルの6Fにあり、ワンフロアのための校舎。

- 週5コースと週2コースがある。毎日登校しなくても卒業可。



# 第一学院高等学校とは



- クラス制度はなし！

全員担任制で各生徒の担当はありますが、クラス担任はいません。  
(主とする学年の担当はあります)

- キャンパスがあることで

- ・学校行事やボランティア活動、サークル活動などに参加できる。
- ・進路相談や悩みを相談できる
- ・友人をつくることができる
- ・レポートの質問ができる



## 【活動紹介】

# ピアサポートプロジェクト



中学生が参加するオープンスクールの企画・運営。  
自分の経験が活かされる場となっている。

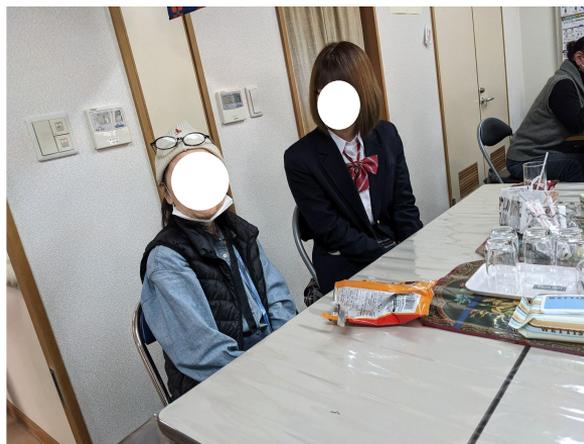


## 【活動紹介】

## 社会福祉プロジェクト



浪速区 社会福祉協議会と連携。  
地域の高齢者の居場所づくりの  
企画・サポート



## 【活動紹介】

## 外国人食堂プロジェクト



外国人就労支援をされている  
(株)YOLO JAPANと連携。  
企画・運営の中心を担っている。  
外国人の居場所づくりをサポート



## 【活動紹介】

## 中等部 プロジェクト



第一学院 中等部の生徒に在校生サポーターが、週に1回、学習サポートを実施。生徒間の交流のために生徒発案のゲーム企画やお楽しみ会を開催。



生徒数名に自分の経験や先生の印象について  
インタビューをしました。

# 在籍生徒の入学経緯

- 高校1年生として4月から入学

[背景]

- 中学時代から不登校
- 勉強についていけない
- 全日制に通うことが難しいと感じた
- 起立性調節障害で起きられない
- 友人関係のトラブル

# 在籍生徒の入学経緯

- 全日制高校から転校

## [背景]

- ・学校での人間関係での悩みが積み重なり不登校
- ・学校の雰囲気合わない、環境を変えたい
- ・先生が怖い、居心地が悪い

# 生徒の現状①

2023年4月時点で2年生

入学時

- ・起立性調節障害のことを友人に理解してもらえず、学校に居場所がなくなり不登校。
- ・中学3年生から中等部に所属していたので、教員や何人かの先輩とは交流があった。
- ・責任感のあるしっかりしているタイプ。

一年次

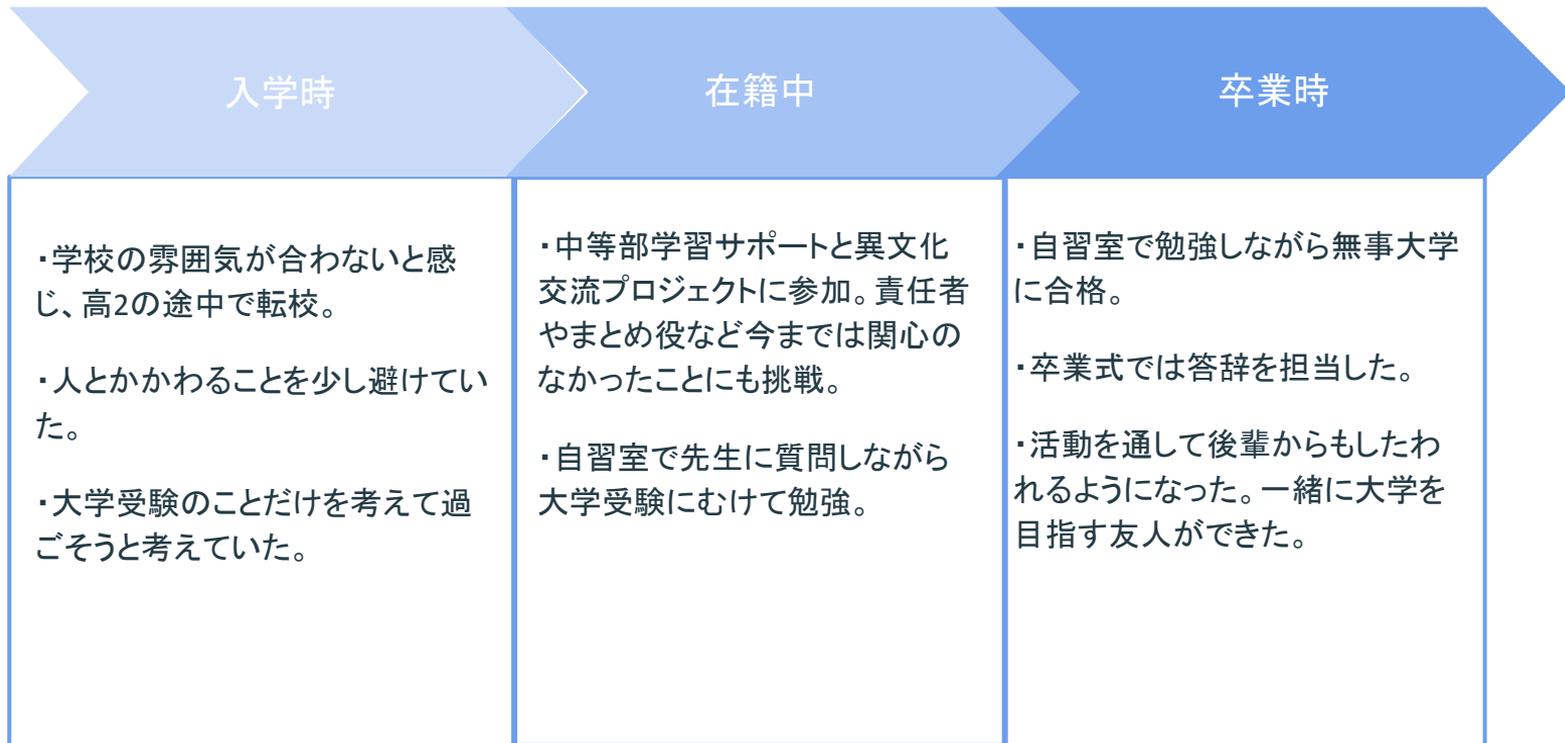
- ・スクーリングの直前にいくことができず、一度参加を見送る。二度目の挑戦で参加。
- ・いまはバイトを頑張っている。店を代表してネット配信に出た。
- ・登校は、週に1回程度で約束をしないと来ない。ただ会いに来るだけの時も多い。

現在

- ・午前中は起きることができない。
- ・学校に意識はあるが、目的を見いだせていないので、バイト優先になっている。
- ・1月ごろから少しずつ登校できるようになっている。

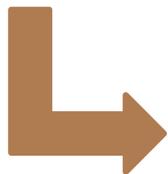
## 生徒の現状②

2023年3月卒業



# 生徒と関わる中で意識すること

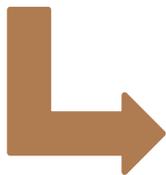
- 連絡をこまめにする。学校で待っていることを伝えた。
- メールで「この時間なら私はあいてるよ！」などと登校してもひとりぼっちにならないと事前にわかるようにした。
- 登校した際には、次週の約束をしてから帰宅させた。
- 少しずつ段階を踏んでいく。



少しずつではあるが週1登校ができるように！

# 生徒と関わる中で意識すること

- タイプ的にできそうであれば、サークルや行事、ボランティア活動に参加するように誘う。(交流のきっかけ作り)
- 生徒の性格や、やりたいこと、本人に合った提案をする。
- まずは見学や様子を見るなどスタートのハードルを下げる。
- なぜこれをするのか意図を伝える。



初めはやらされていたが..徐々に自分で考えて参加するように！

# 生徒が当時の先生に思っていたこと

## ネガティブな感情

・担任や学年主任に、修学旅行や職業体験のガイダンスに参加していないといけないと直前に言われ参加できなかった。理不尽な対応が何度もあった。出席が必要ならもっと早く行ってほしかった。【中学】

・いけなくなってから電話がかかってくるのが嫌だった。ほっといてほしいときもある。【中学】

・支えてくれていたことには感謝しているが、あからさまなひいきが余計に学校に居場所をなくした。平等に接してほしい。【中学】

・放課後話し合いをしてくれていたが、少し先生に圧があった。だが、別室登校や遅れてくるなどの提案などもしてくれていたし、電話での連絡もあり、保護者とも連絡を取ってくれていた。【高校】

# 生徒が当時の先生に思っていたこと

## ポジティブな感情

・体育の先生がハイキューが好きな自分のために放課後、体育館を貸してくれた。自分のために対応してくれて感謝している。【中学】

・友人もいたし、先生も対応は普通に良かった。「おはよう！」って普通にあいさつしてくれるだけでいい。感謝しています。【中学】

・担任の先生は自由にさせてくれていた。意思を尊重してくれていたし、いろんな選択肢をくれた。押し付けず、寄り添ってほしい。

【高校】

・先生はよかったが、校則違反などはきちんと注意してほしかった。【高校】

# 生徒の現状からの考察(私たち視点)

①学校の『先生』という存在に対して、ネガティブなイメージを持っている生徒が多い。

⇒ 中学校は義務教育であるため、一定の枠内での対応をせざるを得ないのか。

⇒ 不登校児への多様なアプローチが必要不可欠。

(当たり前的事ではあるが、生徒の声としては今もある)

⇒ 高校からの転入生はそのような思いはもっていないケースが多い。

# 生徒の現状からの考察(私たち視点)

## ②中学の段階で本人に合った学校選びができているか？

- ⇒ 偏差値や学校のレベルだけを見た、安易な高校選びとなっている。
- ⇒ 入学後「なんか違うな。。」というケースを少なくしたい。
- ⇒ 不登校等で全日制高校卒業に懸念がある場合、通信制高校への進学も提示。

## 【まとめ】通信生高校だからこそ出来る関わりがある

### ①【全員担任制】

クラスという括りがなく、全員で生徒全員を見るという体制。(学年担当と、学年またいで担当はある)

[過去]1人の先生が、1人の生徒に対して、全ての責任を負ってしまうという弊害があった。

[現在]1人の先生で問題を抱えることなく、全員で共有し、対応をとることが習慣化している。

「自分の担当生徒以外は無関心」という意識がなくなった。

## 【まとめ】通信生高校だからこそ出来る関わりがある

### ②【時間割の自由度が高い】

全日制のように「登校しなければならない」という強制力が少ない。(年1回のスクーリングは必須)

そのため、時間割を自由に作成することができる。

- 1人ひとりの生徒に「個別最適な学び」が提供できる。
- プロジェクト型学習・ボランティア活動を「教務の中心軸」に据えることができる。(探究学習を教務の柱に)
- 生徒の意欲を引き出して、それをもとにして活動をするすることができる。

【まとめ】通信生高校だからこそ出来る関わりがある

### ③【流動的な人間関係】

学年をまたいだ人間関係を構築しやすい。

クラスという概念がないため、関わる人間が固定化されない。固まらなくていい。1人で過ごすことも普通。「皆で一緒にやる」という考えは必要ない。程よい距離間の関係性がもてる。

## 参考 通信制高校に入学してどうか

・ピアサポート活動を通して、前に立って話すことができるようになった。毎日通うこともできるようになった。

・いいも悪いも自分のペースでできている。いざいかないとという時に困るときがある。

・消極的だったが、ピアサポート活動を通して漠然とした不安はなくなった。タブレットで意見を集めることもあるので、言いたいことを言いやすい。

・通信制のイメージは、ずっと家にいるような感じだったが、キャンパスがあることで学校生活も体験できる。友人関係は良好。体調を崩したときにきっかけがなく、復帰するのに時間がかかる。強制力がない分甘えてしまうこともある。

・性格が変わった。ひきこもりがちだったが、探検心や好奇心が出ていて行動できた。バイトにも挑戦でき、少しずつ友人に話しかけることもできるようになった。

・卒業に必要なことはできた。高校入試のときは学校選びをきちんとせずに、転校することになったので大学受験では妥協せず努力し、第一志望に合格することができた。

・新しいことに挑戦することができた。検定やパソコンの授業を受けるなど。自主性が大切なので、危機感はある。パソコンの授業を一年間受け続けたことで、継続力がついた。いままでは規則に縛られていたが、価値観が変わった。